



立志

令和7年3月10日（月）発行
学校便り第20号
南城市立玉城中学校
文責 校長



学校教育目標：「自ら学び自ら考え」「心豊かに実践する」「たくましい生徒」の育成

第77回卒業式

3月7日に玉城中学校第77回卒業式が行われました。卒業生は皆いい表情で卒業していきました。卒業生代表の答辞を掲載します。後輩の皆さんは、先輩達からのメッセージをしっかり受け止めて、玉城中の良い伝統を引き継いで下さい。



卒業生代表の答辞の様子

答辞 卒業生代表 大城 竜斗

冬の寒さがやわらぎ、春の兆しを感じる季節となりました。本日は、僕達77期卒業生のために、このような温かい卒業式を開いてくださり、ありがとうございます。

3年前の入学式、どんな3年間になるのだろうと期待と不安を抱えながら玉城中学校の門をくぐったことが、つい先日のことのように思い出されます。あっという間に月日が流れ、とうとう卒業式の日がやってきました。今、僕の脳裏には数え切れないほどたくさんの思い出がよみがえっています。

入学して一番感じたのは、小学校との違いでした。教科担任制や定期テストなど、緊張しつつも、がむしゃらに勉強したことを覚えています。初めての行事のスポレク大会は、クラスみんなで協力し、優勝目指して頑張りました。合唱コンクールでは、本番当日まで、もめることもありましたが、いざ本番となるとすごくいい声で歌うことができました。一年生では感染症も少しずつ収まり、ハーリー体験やゴルフ観戦など、様々な経験をすることができました。

中学2年生になると、僕達も先輩と呼ばれる立場になりました。僕自身、部活動でキャプテンを任せられ、「責任感」の重さを実感することもありましたが、後輩と共に切磋琢磨して練習に励みました。また、目標に向かって練習し、喜びと悔しさの両方をチームメイトと分かち合えたことは、忘れられない大切な思い出の一つとなりました。職場体験では、働くことの厳しさや大切さ、楽しさを学びました。体験学習を通して、将来どんな職業に就きたいかを考える、よいきっかけとなりました。

3年生になってからは、受験生としての自覚を持ち、1、2年生の頃よりも努力する人も増えました。最後の合唱コンクールでは、どのクラスもみんなで協力して取り組みました。その中で、みんなと頑張ることは楽しいことだと感じる事ができました。修学旅行では、1から自分たちで計画を練った京都自主研修。班のみんなで計画通り行動することの大変さを感じながらも、3日間、寝食を共にして過ごすことで、絆を深めることができました。また、生徒会活動では、ジャージ登校に関する取組みや玉中祭の企画・運営を行いました。その中でも、玉中祭では全校生徒で一つになって楽しむことができました。一つ一つの行事を終えるたびに、思い出がまた一つと増えていきました。3年生では、自分で考えることの大切さや楽しさ、挑戦すること、努力することなど、多くのことを学ぶことができました。

出会ってから3年。長い人で9年。そばにいたことが当たり前だと思っていた友人達とも今日でお別れです。一緒に喜怒哀楽を共にするのも今日が最後だと思うと、寂しく感じます。僕は、みんなに出会えてとても幸せでした。明日からはそれぞれが違う道へと歩き出しますが、玉中生として過ごした3年間が僕達の糧となり、将来に役立つ日が来ると思います。本当に今までありがとうございました。

在校生の皆さん、中学生活は皆さんが思うよりとても短いです。だからこそ、今を全力で楽しんで、たくさんの思い出を作り、たくさん笑ってすごしてください。玉城中学校はとても楽しい場所です。この場所を皆さんに託しますので、よろしくお祈りします。

先生方からは、3年間、様々なことを学ばせて頂きました。僕達のことを時には優しく、時には厳しく指導して下さった先生方。本当にお世話になりました。迷惑をかけることもたくさんありましたが、その度にしっかりと向き合ってくださいました。僕達は学んだことを胸に、成長し続けたいと思います。3年間本当にありがとうございました。

お父さん、お母さん。15年間、いつも温かく見守ってくれてありがとうございました。たくさん迷惑をかけてしまいましたが、いつでも私達を支えてくれたおかげで、ここまで成長することができました。僕達は、無事に義務教育を終え、新たな道に進みます。これから自分の道を進む中で、心配をかけることもあると思いますが、これまで同様、温かく見守ってください。よろしくお祈りします。

「僕達はたくさんの人に支えられて生きている」ということをこの3年間で改めて教えてくれました。友人や家族、先生方、地域の方々との関わりを通して、大切なことをたくさん学ぶことができました。

すばらしい出会いと教訓をくれた玉城中学校、そして、僕達のために卒業式を準備して下さったすべての皆様、本当にありがとうございました。決意と感謝の気持ちを込めて、答辞といたします。

